別紙様式２（高）

平成31年度（2019年度）県立土浦第一高等学校（全日制）自己評価表

№. 1

目指す学校像	豊かな人間性の涵養と人格の形成を図り，次代をリードする高い知性とたくましい心身を有し，社会の発展に貢献できる人材の育成を目指す。 教職員の共通理解の下，生徒一人一人のより高いレベルでの進路実現を目指し，地域社会の期待に応える進路指導を実践する。

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
高い「志」の実現をめざし，授業第一主義による質の高い授業や主体的学習態度の育成，生徒一人一人の進路実現への取り組みにより，難関大学や医学部等への合格者数のより一層の増加を目指す。 多くの生徒が部活動や委員会活動等に積極的に参加したり，生徒自ら学校説明会を行うなど広報活動にも意欲的に取り組むことができた。 文科省指定のSGH事業は，海外フィールドワーク等の課題研究活動や発表会の内容等において成果をあげており，完成年度として取り組みの充実を図った。 過去最高の倍率を記録した４年前より志願倍率は下がっており，昨年度は，1.08倍となった。さらなる積極的な情報発信をすることにより，本校の魅力を的確に伝えていく継続的な取り組みが必要である。	主体的学習態度の育成と質の高い授業の展開	①授業に対する意欲と理解を高め，自主的・積極的な学習態度を育成する。 ②自ら学ぶ意欲を高めるとともに，効果的な学習活動を支援する。 ③指導法の研究を通年で行い，授業改善，指導力向上を図りながら，生徒の能力を高める授業を展開する。	A
	豊かな人間性の涵養	④基本的生活習慣の確立に努めるとともに，部活動や委員会活動等への積極的な参加を促し，豊かな人間性の涵養と社会性の養成に努める。 ⑤いじめを許さない心や，他者を思いやる心の育成によって，豊かな人間関係づくりを図る。 ⑥個別面談や教育相談を充実させ，生徒の悩みや課題の解決に向け支援する。	A
	高い「志」実現に向けたキャリア教育の充実	⑦ 高い「志」を持ち，常に前向きに努力し続けることにより，自分の進路を自ら切り拓いていく態度を育成する。 ⑧生徒の自己理解を促し，高い目標設定と自己実現を目指す継続的な努力ができるよう，個別面談の充実を図る。 ⑨将来において，各界でのリーダーをめざすべく，個人の可能性を伸ばすことができるように支援する。	A
	グローバル人材の育成	⑩グローカル・リサーチ・プロジェクト（ＧＲＰ）を通して，課題研究などの探究活動を推進する。 ⑪世界に通用する人材を育成できるよう，課題解決能力やコミュニケーション能力，英語による発信力の向上を図る。	B
	学校情報の積極的発信と地域との連携	⑫学校の情報を積極的に発信するために，学校ホームページや学校通信等を充実させ，本校の魅力を伝える機会を増やす。 ⑬地域とのコミュニケーションやふれあいを大切にし，小中学校や町内会等と交流を図る。	A

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度学期への主な課題
教務部	より深く考える力を育てる授業を展開するための支援を充実させる。	授業時間の確保のため，授業補填率100％を本年も継続させ，日々の時間割を円滑に運営する。 ①②	A	A	・令和4年度からの学習指導要領実施に伴う教育課程の変更について，有用情報を収集し，早期にまとめる必要がある。附属中の日課については，次年度早々に確定する。 ・年間行事におけるのテストの回数，日課について年度当初から委員会を設け検討する必要がある。 ・授業や学校ＰＲにおけるＩＣＴ活用を情報室と連携を強化して，組織的に行いたい。
		学校行事等を効果的・計画的に実施することで，生徒が意欲的に授業に取り組む環境をつくる。 ①②	A		
		定期考査や実力考査，及び校内模試の問題検討会の実施を推進する。 ③	A		
		授業の相互参観を推進し，授業改善，指導力向上の研修機会を増やす。 ③	B		
	次期教育課程と「新テスト」への対応を進める。	次期教育課程を踏まえ，生徒の能動的な学習活動の促進に向け，研究を進める。 ①②③	B		
		次期学習指導要領や「新テスト」の対応に向けて，本校教育課程の検討を始める。 ②③	A		
		医学コースや探究学習の推進を踏まえた平成32年度教育課程を作成する。 ①②③	A		
	広報活動の充実を通し，教育活動の活性化を図る。	中学生に加え，小学生や地域社会に対しても本校をアピールする機会を推進する。 ⑫⑬	A		
		本校の教育活動の様子をホームページなどを通して積極的に公開する。 ⑩⑪⑫	A		
	学習館の利用を促進する。	年間の使用予定を調整し，学習館の利用を効率的に行う。 ②	A		
		学年や校務分掌と連携し，学習活動等に活用しやすい環境を整える。 ①②	A		
	学校の実態を踏まえた人権教育の推進を図る。	人権感覚や人権意識を育み，人権擁護の意識を高める人権教育の実践を支援する。 ④⑤	A		
		教育活動全体を通して人権尊重の精神を養い，生徒に人権感覚や人権意識を育成するために必要な総合的資質・能力を高めることを目的とした職員研修を企画，実行する。 ④⑤⑥	A		
		ＨＲ活動，生徒会活動，生徒が企画・運営する学校行事等における民主的な活動を支援する。 ④	A		
渉外部	学校，家庭，地域社会との連携と協力体制の確立に努める。	各学年後援会の活性化と，連携・協力体制の充実に努める。 ⑫	A	A	附属中学校におけるＰＴＡの規約を策定し，高校と一体化した組織づくりに努める。
		各種ＰＴＡ行事(後援会行事)への積極的な協力・参加を呼びかける。 ⑫⑬	A		
		ＰＴＡ総会の出席者数の増加を図る。 ⑫	A		
	奨学制度の効果的活用を図る。	各種奨学金の情報提供に努め，生徒が有効活用できるようにする。 ⑥	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
生徒指導部	基本的生活習慣を確立させる。生徒自らが規律を守り，節度ある生活をしようとする態度を育成する。	挨拶の励行や制服の着こなし等の指導を通して規範意識の高揚に努める。 ⑦	A	A	・併設中学校開設を見据え，諸規則をはじめ，部活動及び行事運営の在り方を見直し，学校生活の新たな指針構築に努める。 ・いじめの根絶，交通事故ゼロを目指し，生徒指導の充実を図る。 ・教員同士の情報交換をより密にし，生徒の日々の学校生活及び自発的な行事運営を支援する。
		交通ルールの遵守を徹底させるとともに交通事故の防止に努める。 ⑩	A		
		登校時における昇降口での生活指導，校外での交通安全立哨指導等を全職員が分担して定期的に実施する。 ⑦⑩	A		
		携帯電話・スマートフォンやインターネットの適切な利用を指導する。 ⑩	B		
		マナーアップ運動等を推進する。 ⑦⑩	B		
	生徒の実態をよく把握し，充実した学校生活が送れるように支援する。	生徒の実態を把握し，学年等との連携を密にする。 ⑥⑧	A		
		いじめに関するアンケート調査等を実施し，本校のいじめ防止基本方針に基づき，いじめの早期発見，早期解消のために学校全体として一致協力して取り組む。 ⑦⑧	A		
	生徒の発達段階に応じた望ましい集団活動の意義の明確化と自発的な活動の充実に努める。	生徒会を中心に，学校生活の改善・向上や充実を目指した生徒の主体的活動を支援する。 ⑥⑨	A		
		各種委員会活動の活性化を図る。 ⑥⑨	A		
		生徒自らが企画・運営する学校行事への支援を工夫し，生徒の発想や創意を活かす。 ⑥⑨	A		
		運動部・文化部等の積極的・自主的活動を奨励するとともに，学習と両立させるようにする。 ⑨⑩	A		
教育相談室	教育相談体制を確立する。	教育相談室の広報に努めるとともに，生徒や保護者が相談しやすい環境や体制を整える。 ⑥⑫	A	A	・ホームページ等も活用し，相談室の広報に努める。 ・生徒の支援に生かすべく研修を積む。
		各学年や各校務分掌と連携し，学校への不適応が見られる生徒の支援にあたる。 ⑤⑧	A		
		教員のスキルアップを図るため，スクールカウンセラーを活用した研修会を学年ごとに開く。 ⑥	B		
保健厚生部	安全で衛生的な生活環境を整備する。	清掃計画を作成し，生活環境が衛生的に保たれるよう分担区清掃を責任もってをあたらさせる。 ④⑨	A	A	・環境美化においては、各分担区域での清掃指導の徹底がなされた。継続していく。 ・避難訓練のブラッシュアップ。
		校内の環境を安全・清潔に保つために定期的に安全点検を行い安心して生活できる環境を整える。 ⑨⑩	A		
		周辺住民も参加した避難訓練を実施し，地域と連携した防災力の向上に努める。 ⑫⑬	A		
	生徒の健康管理を支援する。	検診機関等が行う活動の準備，実施，事後措置に対し協力，指導する。 ⑥	A		
		自他の生命尊重を基盤とした健全な倫理観を育み，将来の実りある自己実現に向け，性教育に関する保健指導を実施する。 ⑤⑥	A		
進路指導部	学習指導を支援する。	効果的な個別指導を行うため，学年と共同で生徒の家庭学習実態を把握，担任を支援する。 ①②③	A	A	・教職員集団として，さらに強い共通理解を持った進路指導ができるように努める。 ・生徒と保護者が進路について共通の認識を持てるよう支援する資料等を提供する。 ・ＨＰの利活用をさらに充実させられるように努める。
		生徒の進路希望に即した授業や考査のレベルを維持するため，教科担当者が外部の研究会に積極的に参加するように促す。また教科内の作問などの検討を促す。 ③	A		
	生徒が志高く，自らの進路希望を実現できるようにする。	将来の生き方や生活，進路や職業について考えさせる学年ごとの行事への積極的な支援をする。 ④⑤⑧	A		
		生徒が自分の将来をデザインするための資料や図書の充実に努める。 ④⑤	B		
		進路情報交換会を開き，課題の発見とその解決に努め，教職員集団として共通理解を持った進路指導ができるようにする。そのため進路指導部内のシステム化を図り，学年との連携を密にする。 ②③⑤	A		
	適切な進路情報の提供に努め，生徒が自らの将来をデザインできるようにする。	生徒が志望校を考える資料として，進学要覧・合格体験記を作成し，生徒に配布する。 ④⑤	A		
		４月の学年後援会総会，７・１２月の保護者面談の際，学年に応じた適切な進路情報を提供する。 ⑤	A		
		必要に応じて進路通信を発行したり，外部からの資料を配付し，生徒と保護者が進路について共通の認識を持てるように支援する。 ⑤	A		
図書視聴覚部	授業の展開に対応した資料を充実させる。	各教科を対象に随時購入希望図書の調査をし，蔵書の充実を図る。 ①②	B	B	・バランスのとれた電子化によって蔵書を充実させる。特に，コンピュータによる蔵書管理のため，未登録図書の登録作業を完了する。 ・蔵書面・設備面において，付属中の開校に備える。 ・図書館・視聴覚室について，授業や自学の場としての整備を進める。
	読書・作品鑑賞等を通して教養を深め，豊かな人間性を養う。	蔵書の効率的利用と図書館内の安全確保のため引き続き蔵書の整理を進める。 ②	A		
		来館した生徒の読書意欲を喚起するための情報発信や図書の配置の工夫を継続して行う。 ②⑦⑨	A		
	授業及び自主学習の場として，利便性・快適性を高める。	図書館・視聴覚室の美化に努め，利用マナーの遵守について指導する。 ②④	B		
		課外授業及び視聴覚教材を用いた授業の場として視聴覚室を開放する。 ①②	A		
		生徒の自主学習を支援する場として，弾力的に図書館を開館する。 ①②	B		
情報室	情報教育の環境を整備する。	事務室・教科・学年と連携し，ＰＣ環境の整備に取り組む。情報セキュリティやウイルス対策等に対する意識を高める。突発的に起きるトラブル等に対しても対応出来るような用意をしておく。 ②	A	A	・引き続きＰＣ環境の整備や情報セキュリティ対策に取り組む。 ・情報モラル教育を推進する。
	情報モラルに関する意識を高める。	授業などで情報モラル教育を推進するための資料の提供を行う。現在の情報技術を取り巻く社会環境についての具体的事例やその対処法等について指導する。 ①②④	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
探究学習推進室	課題探究活動を推進する。	課題探究活動を行うにあたり，SGHの成果を踏まえながら，大学教員の講義，留学生ワークショップ，海外大学との連携等を通じて，生徒の興味・探究心を喚起し，自ら考えさせる態度を育成する。②⑥⑨	A	A	・課題学習をさらに深化させ，各自の取り組みを向上させる。 ・本校の特色を生かした探究学習推進のための新たな事業を構築し，精力的に取り組む。
	人的ネットワークの構築を推進する。	SGHの成果を踏まえながら，起業教育プログラム，海外高校との交流，海外フィールドワーク等を通じて，世界に目を向け，将来活躍するために必要なネットワークを主体的に構築させる態度を育成する。②④⑥⑨	A		
	幅広い視野を養う活動を推進する。	SGHの成果を踏まえながら，文化講演会，企業・研究所訪問，OBOGガイダンス，進路講演会等を通じ，自らの課題発見とその解決を支援し，幅広い視野を持った生徒を育成する。②④⑥⑨	A		
	グローカル人材の育成を推進する。	SGHの成果を踏まえながら，学校行事や各種委員会活動等を通じ，自己を確立しつつ，他者を受容し，多様な価値観を持つ人々と共に思考し，協力・協働しながら課題を解決し，新たな価値を生み出しながらグローバル社会に貢献することができる生徒を育成する。②⑥⑦⑨	A		
旧本館学習館統括室	自習場所として活用する。	各学年，特に第３学年と連携し，自習の場所として相応しい環境を整える。②	A	A	旧本館・学習館が生徒の学習活動等にさらに寄与できるよう環境を整える。活用委員会と連携し、一般公開を継続的に行う。
	各種行事に活用する。	学校・学年行事等による使用予定を把握調整し，学習館の利用を効率的に行う。②④	A		
	旧本館の活用を図る。	旧本館活用委員会と連携し，平日の学習や特別活動等の利用について検討し，環境を整える。②④	A		
		学校休業日における地域との交流等のための利用について，旧本館活用委員会と検討する。⑬	A		
第１学年	授業中心の主体的な学習スタイルを確立し、自己実現に向けて幅広い知識と教養を身に付ける。	挨拶，容儀，時間管理など日々の生活の中で高いレベルで自らを律する姿勢を養う。④⑤⑦	A	A	・自分だけでなく，自分たちの属する集団をも自ら律し，自分も仲間たちも向上する行動が起こせるように成長させる。 ・上級生として，学校行事や部活動の中核であるという自覚を持ち，その中で自分の役割を確立し，周囲と協調して１つのことを成し遂げる中でリーダーシップやフォロアシップを図れる生徒を育む。
		全ての教科・科目において生徒を主体的に参加させる授業を展開し,自ら取り組み考える姿勢を培うとともに，知見と視野を広げる。①②③⑨	A		
		習慣と反復の重要性を認識させ，安定した生活習慣と復習を中心とした毎日の継続的な自学の習慣を確立させる。	B		
	高い目標を設定し，それに向けて自らを律し努力する姿勢を養う。	企業訪問やOB・OGガイダンスなどを通じ，広く社会に目を向けさせ，将来に向けて高い目標設定をできるよう喚起する。⑦⑧⑨	A		
		ホームルームや面談を通じて自らの課題を意識させ，目標達成に向けた今後の見通しを立てさせる。④⑤⑥	A		
	部活動や学校行事を通して，高いコミュニケーション能力を育成する	委員会や部・同好会の活動に積極的に参加させ，集団内でのリーダーシップを育成する。⑤⑦⑨	A		
		生徒間の教え合いを活発化させ、知の伝達を「ネットワーク型」にする。特に、成績上位者に教える意義をしっかりと伝え、情報発信者として機能させる。①②⑧	B		
		探究学習を通じ，探究する姿勢を養うとともに，情報発信力を育む。⑨⑩⑪	B		
第２学年	教養主義を掲げ，自立探求型学習の深化を図り，高い目標へ継続的に取り組む。	学年行事を通して，自分の進路適性を見つめ，高い目標設定ができるよう働きかける。⑦⑧⑨	A	A	新テスト導入に向けて変化に適応した行動力と主体的な判断が求められる。文化祭や部活動での完全燃焼を区切りに，受験体制を確立し，第一志望を貫き通す強い意志と粘り強さを兼ね備えさせたい。
		授業中心主義，多科目主義を堅持し，平日３時間休日５時間以上の家庭学習を継続させる。①②③	B		
		学習活動や行事において，生徒間のネットワークの活用を図る。⑩⑪	A		
	諸行事や課外活動に積極的に参加し，人間性とリーダーとしての資質を育む。	部活動・各種委員会活動・三大行事に全力で取り組ませ，リーダーシップを育成する。④⑨	A		
		自ら考え，自ら行動を起こす自立した生徒を育てる。②⑨	A		
		他者・集団の利益を考えさせ，生徒の責任感や客観性を育成する。⑤⑨	A		
	多様な価値観を積極的に取り入れ，自己の成長へとつなげる	別クラス・団体に所属する生徒間の繋がりを作り，生徒間の交流の活性化を図る。④⑤⑥	A		
		担任面談や学年担当者との関わりを通して，目標への挑戦を啓発する。⑥⑦⑧	A		
		スマホやSNSに依存しない繋がりを促し，コミュニケーション能力を育てる。②⑤	B		
第３学年	高い目標を掲げ，実現のための生活を徹底する。	面談を通して，自分の進路適性を見つめ，早期の目標設定ができるよう働きかける。また，それらを通して高い志を持つ生徒を育てる。⑥⑦⑧	A	A	担任や「担任外」による面談を積極的に行い，生徒との信頼関係を築いてきた。保護者に対しては，従来の進学講演会等に加え，「進学研修会」を行い，進路情報を積極的に発信する機会を増やした。結果として，「安全志向」と言われる風潮の中，多くの生徒が第一志望を貫く出願ができた。結果を出して，次年度以降にいい形で引き継いでいきたい。
		集団内での「けじめ」と社会的なモラルを意識させ，自らを律する能力を育てる。特にスマートフォンの扱いに関するけじめを確立させる。②④⑤	B		
	部活動，委員会活動で完全燃焼し，高い充実感を持って受験に切り替える。	部活動，一高祭に全力で取り組ませると共に，一高祭終了・部活動引退を機に，大幅な切り替えを促す。⑦⑧⑨	A		
		転換期に進路講演会，課外（東大研，医学研）を実施し，受験にしっかりと向き合わせる。②⑦⑧	A		
	授業第一主義を貫き，学校中心の学習活動で希望の進路実現を図る。	「授業は地元難関大レベル，課外は最難関大レベル」を徹底し，学校内の指導だけでも大学受験が完結できる学習環境を提供する。①②	A		
		始業前や放課後の学習環境を整え，教室・学習館を学習の中心の場とするよう啓発する。①②	A		
	生徒間のネットワークを，共に教え合う・啓発し合う関係に昇華し，受験に団体で臨む。	授業，課外を通して，互いに教えあう場面を誘発する学習指導を行う。①②③	B		
		課外（東大研）を通して，クラスの枠を越えた生徒交流を図り，互いに啓発しあう関係を育む。②⑤⑨	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
国語	基礎学力の確かな定着を図る。	授業計画を生徒に配布し，目的意識を持たせ，予習・復習等の学習をさせる。 ①②	A	A	継続して読解力，記述力を伸ばす授業を展開するとともに，変化の最中である入試を見据えた柔軟な思考力の涵養を目指す。また，教員同士の情報交換等を積極的に行い，指導技術の向上を目指す。
		言語活動を積極的に取り入れ，全ての教科の基礎となる言語技術に関するメタ認知を高める。 ①②	A		
	探求型の学習スタイルを目指し，自ら学ぶ力の育成を図る。	個々の国語力の伸長を目指して，教科書以外にも課題を精選して与え，自学自習の習慣をつける。 ①②	A		
		生徒のニーズに合わせた特別講座や，学力不振の生徒に補講を行い，幅広い層の学力の向上を図る。 ①②	A		
		教科横断的な協同学習や表現活動を取り入れることで，国語力を総合的に伸ばす。 ①②	A		
	指導力の向上を図る。	単元ごとの授業内容や，毎回の考査問題の協議を行い，的確な学力評価を行う。 ③	A		
		考査や模擬試験等の結果の分析を授業計画にフィードバックし，効果的な授業を構築する。 ③	A		
		相互の授業見学を含む校内研修の実施や，校外研修等に参加するなど指導技術の向上に努める。 ③	B		
地歴	世界史の学習を通して，国際社会における日本人のあり方を学び，社会に貢献できる生徒の育成を図る。	世界史の通史だけでなく，テーマ史的な観点からも歴史的事象を取り上げ，近現代世界に対する多角的で柔軟な捉え方を身に付けさせる。 ①②	A	A	・国際社会の動向を踏まえながら、日本と世界についての興味・関心を高め，理解を深めさせるような授業を心がける。 ・思考力，判断力，表現力の涵養をはかるため，ＡＬの手法等を取り入れた授業改善を行う。また，史資料を活用する能力の養成をはかる。 ・新学習指導要領の導入に向けた準備を進める。
		世界各地の文化とその成り立ちを学ぶことにより，我々と異なる文化や考え方を理解・尊重する態度を育成する。 ①②	A		
		世界史の基礎的な知識を身に付け，それをもとに自ら考える力を育成し，表現する力を養成する。 ①②③	A		
	我が国の歴史の展開を地理的条件や世界の歴史と関連付けて考察させるとともに歴史を追究する資質を養い，歴史的思考力を培う。	各時代の国際環境や地理的条件などと関連付け，世界の中の日本という視点で考察させる。 ①②③	A		
		地域社会の歴史と文化を扱うことにより，郷土に対する関心を高め，愛する心を育てる。 ①②③	A		
		適切な主題を設定し，自らの考えを論述する活動を通じて，歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。 ①	A		
	現代世界で発生する種々の事象に対して，自ら考える姿勢を養うとともに地理的な見方・考え方の育成を図る。	系統的な学習を通して基本的な知識の定着を図り，地誌的な学習を通して興味・関心を持って具体的に現代世界を考察する態度を養う。 ②③	A		
		授業進度の適切な時期を考慮して，調査や作業学習を体験することで地理的な技能を養う。 ②③	A		
		３学年では大学入試に対応した論理的な思考力や表現力を育成する。 ①②③	A		
公民	国際人としての自覚を養い，倫理の諸問題に着目しながら課題解決できる姿勢と能力を養う。	倫理で必要とされる基礎的知識を身に付け，それをもとに諸問題に対して自ら考える態度を育成する。 ①②③	A	A	・時事的な話題を常に取り上げ，興味・関心を高める工夫を心がける。 ・ＡＬの手法等を取り入れた授業改善を行う。 ・新学習指導要領の導入に向けた準備を進める。
		青年期における自己形成と，人間としての在り方・生き方についての理解と思索を深めさせる。 ②④	A		
	政治・経済・国際関係などについて客観的に理解し，関心を持って考察する態度を育成する。	民主主義の本質に関する理解を深め，現代社会における政治・経済・国際関係などについて理解させ，基礎的な知識を身に付けさせるとともに，それらについて主体的に捉え，考えさせる。 ①②③	A		
数学	生徒の発達段階に応じた質の高い授業を展開する。	綿密な授業計画表を作成し，進度計画表を生徒に配布することで生徒の学習計画を促すとともに，それぞれの学年の方策に従って基礎学力の定着を図る。 ①②③	A	A	・授業を中心とした学習計画や予習復習の学習習慣を更に徹底させる。 ・新学習指導要領のもとでの指導法の研究を進める。 ・様々な学力層が混在しているので，学力層に合わせた指導を展開する。 ・大学入学共通テストの研究を進める。
		授業重視を徹底させる。日常の自己学習を徹底させる。 ①	A		
		授業中心の学習計画を立てさせ，「予習→授業→復習」の学習習慣を確立させる。 ①②③	B		
		科目担当者の連携を密にし，授業の進度や定着度合いの確認・分析を行い，学習指導に生かす。 ①②	A		
		基本事項の理解を徹底させると共に，問題演習を十分に行う。 ①	A		
		授業内容や生徒の習熟度に応じた教材・問題等を協議検討して，その結果を学習指導に生かす。 ①②	A		
		３学年の生徒には，基本事項を整理し，発展的な応用力の養成と定着に努め，難関大学に合格できるための思考力を養う。 ②	B		
		進学目標別の対策を研究するためのガイダンスや課外を実施する。 ②③	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
理科	自然に対する関心や探究心を高め，科学的に探究する能力と態度を育てる。	授業展開の中で，生徒の興味・探究心を喚起する実験・観察教材の研究と工夫に努め，発展的な内容や話題について提供する。 ①②③	A	A	・習熟度に応じた指導方法をさらに改善し，生徒の学力の向上に努める。・新学習指導要領や大学入学共通テストへの指導方法について研究し，求められる「思考力・判断力・表現力」の向上に向けて教科指導の充実を図る。 ・科学の甲子園や科学オリンピック参加生徒への指導の充実を図る。
		単元毎の観察･実験を行い，観察･実験に積極的に取り組ませ，現象を見る目や探究心を養う。また，その内容についてのレポートの作成や発表を通して，学力の定着を図るとともに科学的な思考力を養う。 外部講師による「科学実験講座」を実施し，発展的内容に触れさせることで科学的探求心を育てる。 ①②	A		
	自然の事物・現象についての理解を深め，科学的な自然観を育成する。	授業で履修する事柄が自然や生活の中の仕組みにどのように関わっているかを取り上げることにより，科学を学ぶ楽しみや科学的な姿勢を育成し，科学的現象に対する学習意欲を高める。 ①②	A		
	基礎学力を充実させ，３年においては，特に生徒の進路を考慮して応用力の養成を図る。	授業内容や生徒の習熟度に応じた教材・問題等を協議検討して，その結果を学習指導に生かす。 演習問題等を精選し，授業や添削指導などを通して，基礎学力を確実に定着させる指導を行う。 ②③	B		
		３学年の生徒には，基礎学力定着の確認を行うとともに，発展的な応用力の養成と定着に努める。良質な演習問題や試験問題の作問に努め，高いレベルの学力や思考力を育成し、最難関大学の受験へ対応できるようにする。 ②③	A		
保健体育	運動や学習を通して，協調性を高め，仲間との関わりの中でそれぞれの力を伸ばす意識を持たせるように指導する。	集団種目を多く取り入れることにより，仲間と協力・連携して活動する態度や，役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする態度を育成する。 ①②③	A	A	体育 集団や種目の特性に応じて自己やチームの課題を解決しながらゲームを展開する力を高める指導の工夫。自主・協同・責任を果たすリーダーシップの涵養。スモールステップで達成体験を積むことのできる指導方法の工夫研究。思考力・対話力を高めるコミュニケーションの場の工夫。事故を未然に防ぐために，生徒の危険予測能力の向上、危険箇所の早期改善，安全な体育施設の利用の促進。 保健 深い対話的学びが実践できる課題学習の学習方法や発表方法の研究。
		集団の特性に応じた，ゲームの工夫や技能を高める実践的能力や態度を育成する。 ⑦⑨	A		
		準備や片付けを率先して行う態度を養い，集団や社会に寄与する精神を育てる。 ⑦⑨	A		
		保健においては，自分の身体への理解を深めて命の大切さに気づき，自己愛や他者への思いやりの心が育つように指導する。 ①②③⑤⑨	A		
		保健においてはグループ研究・発表を実施し，共同で学習する事によって仲間意識や責任感を持たせるよう指導する。 ①②③⑤⑨	A		
	運動の実践を通して，体力の向上，困難なことにも立ち向かう態度や能力を育成する。	克服的な種目（水泳・長距離走）を実施することで，チャレンジ精神を養い，体力の向上や達成感を味わわせる。 ①②③	A		
		苦手なことにも取り組みやすいように，工夫した指導や声かけを行い，関心・意欲・態度の評価を重視する。 ①②③	A		
		個人スキル向上のために，ドリルや発問の仕方を工夫し，発展したゲームが展開できる力をつける指導を行う。 ①②	A		
	体育的行事を推進し，主体性や計画・実践する能力を高め，人間性を涵養する指導を行う。	体力テストを通して自己の体力を客観的に評価し，日頃から健康への意識を高め，生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育成する。 ④⑦	A		
		一高オリンピックを生徒が主体的・計画的に行えるよう支援し,望ましい人間関係の形成や集団への所属意識や連帯感を深め，よりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。 ④⑨	A		
		運動部員が，クラスや学校行事においてもリーダーシップを発揮できるように，指導育成する。 ④⑨	A		
	運動・スポーツ活動における健康・安全指導を充実させる。	活動中の健康観察を徹底し，気付いたことがあれば積極的に声かけをする。 ①②	A		
		周囲の者の健康状態を観察したり，危険を察知する能力や態度を育成する。 ①②	A		
		健康，安全に関する自己管理能力を育成する。 ①②	A		
芸術	多様な表現活動を通して芸術表現・鑑賞の楽しさを味わい，生涯に渡って芸術を愛好する豊かな心情を育てる。	生徒一人一人の個性や感性に沿った個別指導を充実させる。 ①②⑧	A	A	(音)表現活動や相互鑑賞を更に工夫し，一人一人に沿った指導の充実を図る。(美)国語科と連携し，読書感想画の制作を授業に取り入れたい。
		生徒の実態に沿った課題選択をし，教材や授業内容及び指導方法を創意工夫する。 ②③	A		
		生徒自ら工夫した表現活動や相互鑑賞などにより,芸術の諸能力の向上を図る。 ①②	B		
		相互鑑賞等をとおして，他者の考えや表現に共感する鑑賞の能力を高めるとともに，自己の制作意図を他者に分かりやすく伝える発表の能力を向上させる。 ①②	A		
家庭	生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得し，家庭生活の充実向上を図る力と実践的な態度を育成する。	各分野の授業において，生徒が興味・関心を持ち取り組む実習を研究し，発展的な知識・内容についても提供する。 ①③	A	A	他教科との連携を図り,授業の組み立てを見直すとともに，自ら考え課題解決する学習を多く取り入れる。
		授業において学習した知識や技術を活かし，家庭生活における課題を主体的に解決する態度を育成する。 ①②	A		
		技術の習得については，生徒一人一人の能力にあった個別指導を充実させる。 ②⑨	A		
		高等学校家庭クラブ活動を充実させ、リーダーとしての資質を育成する。 ⑨⑪	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
情報	課題設定や課題解決のための思考力を養う。	課題探究活動を行うにあたり，ポストSGHを勘案しながら，大学教員の講義，留学生ワークショップ，海外大学との連携等を通じて，生徒の興味・探究心を喚起し，自ら考えさせる態度を育成する。②⑥⑨	A	A	課題研究の活動は，単に研究成果をまとめればいいというものだけではない。研究という知的営みを通し思考力などの資質能力を向上させ，失敗したことをも学びにする貪欲さを養うことがさらに求められる。この高次の目標達成が今後の課題になる。
	人的ネットワークを構築する力を養う。	起業教育プログラム，海外高校との交流，海外フィールドワーク等を通じて，世界に目を向け，将来活躍するために必要なネットワークを主体的に構築させる態度を育成する。②④⑥⑨	A		
	英語力とICT技術を養う。	将来グローバル社会で活躍するために必要となる国内外の社会・文化の諸問題の理解力を，外国人教師の授業等を通じて育成する。①②⑥⑨	A		
		ワープロ，表計算ソフト，パワーポイントを活用した課題研究と各種発表会を通して，情報の伝達力を育成する。①②	A		
	幅広い視野を養う。	文化講演会，企業・研究所訪問，OBOGガイダンス，進路講演会等を通じ，自らの課題発見とその解決を支援し，幅広い視野を持った生徒を育成する。②④⑥⑨	A		
	コミュニケーション能力を養う。	学校行事や各種委員会活動等を通じ，自己を確立しつつ，他者を受容し，多様な価値観を持つ人々と共に思考し，協力・協働しながら課題を解決し，新たな価値を生み出しながらグローバル社会にに貢献することができる生徒を育成する。②⑥⑦⑨	A		
英語	英語科全体の目標 分かりやすい授業を展開し，実践的コミュニケーション能力を養う。	全体		A	４技能のバランスを重視して，英語運用力の統合的かつ総合的な指導を行う。また新テスト(リスニング100点)に対応した指導法の構築に取り組む。 ・1年 ４技能の調和のとれた伸長を図り，自律した学習者への基礎を養う。 ・2年 1年生で培った基礎力を更に伸ばすとともに、会話やエッセイなどの表現力の育成に重きを置く。 ・3年 一斉授業と個別指導を組み合わせ、高度な英語を読み、自らの考えを正確に表現できるようになる。
		・教材研究を深めて，生徒の知的好奇心を刺激し，充実感のある，分かりやすい授業を展開する。①②	A		
		・英語を通し，将来国際社会で活躍する日本人として必要となる，国内外の文化・社会の諸側面についての理解を深められるように題材の扱い方を工夫する。①②	A		
		・読む，聞く，書く，話すの４技能をバランスよく伸長できるような授業を展開する。①②③	A		
	第１学年の目標 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，英語の確かな基礎力を養う。	第１学年の具体的方策			
		・授業を中心に予習復習の徹底を図り，自立した学習の援助をする。①②	A		
		・語彙力を向上させるテストを学年を通して実施する。①②	A		
		・英語に親しめるサイドリーダーを選択・活用して，読解力の基礎の育成を図る。①②③	A		
		・辞書指導の充実等によって，自立した学習力の育成を図る。①②	A		
		・授業内にペアワークを頻繁に取り入れ，実践的コミュニケーション能力の向上を図る。①	A		
	第２学年の目標 第１学年で培った英語の基礎力をさらに伸長させ，確かな英語力を養う。	第２学年の具体的方策			
		・第１学年で培った生徒の英語力を踏まえて，個々の生徒の英語運用能力を伸ばす授業を展開する。②③	A		
		・表現力を高めるための構文確認小テストを継続実施する。②	A		
		・文法に正確で論理的英文が書ける力を養えるような授業を展開する。①	A		
		・英語による自己表現を促すことで，世界的な視野を持つ人材の育成を図る。①②	A		
		・知的好奇心を刺激するようなサイドリーダーを選択・活用して，読解力の向上を図る。①②	A		
	第３学年の目標 生徒の進路希望実現のために，難関大学入試に対応できる確かな実践力を養う。	第３学年の具体的方策			
		・第１，２学年で培った英語力を踏まえ，ゆるぎない英語力を完成させる。①②③	A		
		・大学入試問題を研究し，生徒の進路希望に即した考査を実施する。①②③	A		
		・国公立大学個別学力試験に対応できるような英文要約や英作文等の個別指導を充実させる。①③	A		
		・センター試験で各生徒の進路希望実現に必要な成果が出るように，直前対策を実施する。②	A		

５段階評価　　A：目標が十分達成された　B：ある程度の成果が見られた　C：取り組んだ　D：取り組んだが課題を残した　E：取り組まなかった